横浜市立　大豆戸小学校
平成３０年度　学力向上アクションプラン

１　中期学校経営方針

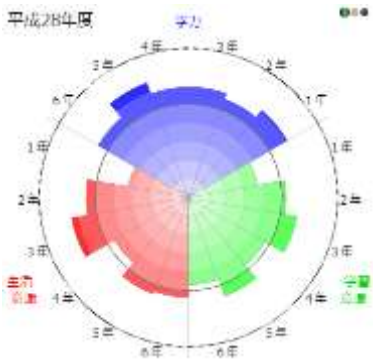
（1）　学校経営中期取組目標

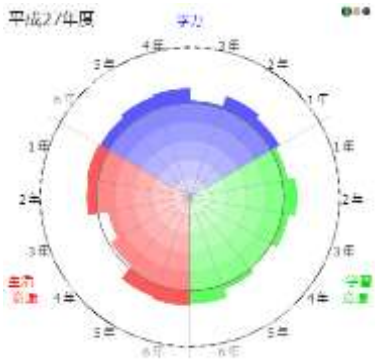
学校教育目標の実現に向けて、家庭、地域、さらに社会との連携を深め、「歌声いっぱい、花いっぱい、笑顔あふれる大豆戸小」を目指します。
・「歌声いっぱいプロジェクト」を通して、子ども達に豊かな学びを保障します。
・「花いっぱいプロジェクト」を通して、学びの環境作りを目指します。
・「笑顔いっぱいプロジェクト」を通して、こども達の自己実現を目指していきます。

（2）　学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具　体　的　取　組
確かな学力	○基礎的・基本的な知識、技能の習得及び定着に重点をおくとともに、学び合い高め合う子供達の主体的な学びの姿を目指し自らの思いを豊かに表現できる子を育む。	・自己肯定感の向上を目指し、「できた」「わかった」喜びの味わえる学習の場の保障。 ・学習の定着に向けた取り組みの工夫(本物に触れる機会の積極的活用) ・重点研究「人権教育」を窓口にした、人権感覚と自尊感情の育成。 ・カリキュラムマネジメントの推進。

２　横浜市学力学習状況調査等からの実態把握





（1）　学力の概要と要因の分析

全体的には横浜市の平均を上回っている。教科等の学習に対して肯定的な回答をしている児童がどの学年でも７割を超えている。高学年では、授業への積極的な取り組みに対し８割近くの児童が肯定的な回答をし、授業に主体的に取り組む満足感を味わっていることが分かる。

（2）　教科学習の状況

○国語:正確に読み取る力は身に付いている。相手の意図に応じた読み取りが課題。
○社会:「知識・理解」「技能」、市平均を上回った、「思考・判断・表現」はほぼ同じ。
○算数:「技能」は市の平均を上回った。知識技能を応用した問題が課題。
○理科:「知識・理解」「技能」、市平均を上回った、「思考・判断・表現」はほぼ同じ。

（3）　経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

○生活・学習いずれの意識も１年が低い。問題数の多さに意欲を欠いたり、放課後の過ごし方の多様化から解答の複雑さや難しさを感じたりした児童が多かったためだろう。
○国語の「漢字」・「読む」、算数・社会の「知識・理解」、社会・理科の「技能」は、毎年市の平均を上回っているが、自分の考えを表現する力は全体的に低い。自分の考えを表現交流し、友達と学ぶ楽しさに気付く授業づくりの必要性を感じる。

（１）学校組織としての共通の取組み

○　夢中に取り組む授業に向けての授業改善（できた！わかった！かかわれた！）

知識・技能を自分のものとして獲得していく過程で、意欲的に取り組むために、児童が夢中になって取り組むことに視点をあてた授業改善に取り組む。

・教科担任制を積極的に取り入れる。

・体験的活動の場を保障し、学ぶ楽しさを実感させながら学習意欲、探究心の向上に取り組む。

・読書活動の大切さを共有し推進する。

○　特別支援教育の充実

配慮を要する児童への指導や対応は、児童支援専任を中心として児童理解に努め、情報を共有して家庭と密に連携して対応する。

（２）学年・教科の取組み

１学年

○ 話す、聞く等学習の基盤を培うとともに、学習に楽しく取り組める教材開発をし、授業改善に努める。

○ 生活科などで、地域の人や、幼稚園、保育園とのかかわりを通し、ふれあいを大切にし、自分を高められるようにする。

２学年

○ 問題解決に向かって、既習事項を生かしながら、身の回りの人に聞いたり町探検をしたりして人と関わっていく。

○ 相手の気持ちを考え、協力して活動できるようにする。

○ めあてをもって、地域の方々との交流などの体験をし、自分の思いや願いを自分らしくのびのびと表現できるようにする。

３学年

○友達や地域の人と意欲的にかかわる教材の研究を進め、計画的に取り入れる。

○もっている知識・技能を生かし、学んだことを様々な場面で活用できる学習を計画し自己の向上が実感できるようにする。

４学年

○その分野の専門家や地域の人とかかわることで、より意欲的に学習に取り組んで課題を解決できるようにし達成感を味わえるようにする。

○計画したことを最後までやり遂げ、満足感が得られる学習を計画的に行う。

５学年

○友達、異学年、地域の人など相手を意識した表現活動を年間を通して位置付け、多くの人とのかかわりを通して得られる自己の高まりを実感できるようにする。

○互いの考えを関連付けたり、分類整理しながら話し合ったり、活動したりすることで、より深い達成感が得られる学習経験を多くする。

６学年

○異学年や地域の人、その分野の専門家など多くの人とのかかわりを通して、それぞれの考えを知り伝え合うことで自己の考えの幅が広がり高まった喜びを感じられるようにする。

○理由や根拠を明確にすることで、知識だけでなく、できた実感やわかった実感を確かなものとし、学習の充実を感じるようにする。

個別支援学級

○　個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。

○　子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行うようにする。

○　子どもに応じたわかりやすい情報伝達の方法を工夫して学習を進める。